

# 【前半】

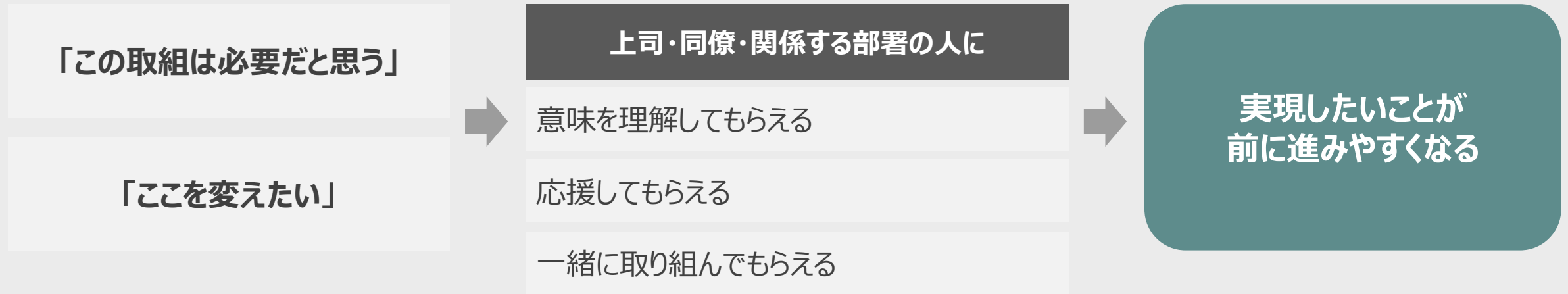
## その事業で、何が変わる？

総合計画と事業をつなぐロジックモデル入門

前半 活動から、変化を考える

令和〇年〇月〇日  
〇〇〇〇

## ご自分の仕事で、誰かと一緒に進めたいことは？



**一つ、思い浮かべてみてください**

書いたり発表したりはしません。思いつかなければ、この後の共通の例で考えて構いません

## 目指す変化と道筋が見えると、一緒に進む理由を見つけやすい

立場や関心は  
人それぞれ



「この取組で、誰にどんな  
変化を起こしたいか」  
を共有する



一緒に進む理由を  
見つけやすくなる

### ロジックモデル —— 目指す変化と、そこへ至る道筋が見える形にする道具

自分の仕事が住民の何に役立つのかを捉える

理由や、まだ分からない所も含めて、説明・相談する

周りの人も、何のための取組で、どこに協力できそうかを考えやすくなる

## 今日は共通の事例で練習して、職場での説明・相談に生かす

前半 活動から変化へのつながり確かめる

分ける

やったことと  
変わったことを  
分ける

問う

活動から変化への  
矢印を問い直す

後半 計画が目指す姿と事業を結び、指標を一つ考える

つなぐ

計画・必要な変化・  
取組をつなぐ

確かめる

変化を確かめる  
指標を一つ考える

職場へ

自分の仕事で  
確認することを  
一つ残す

前半の用紙を使います。後半の用紙は休憩中に配ります

## 1. 実施量と変化

「採用を増やす」という目的に近づいたのは、どちら？

保育士の採用を増やしたくて、採用説明会を開くことにしました。

**A**

**説明会 100回  
採用 0人**

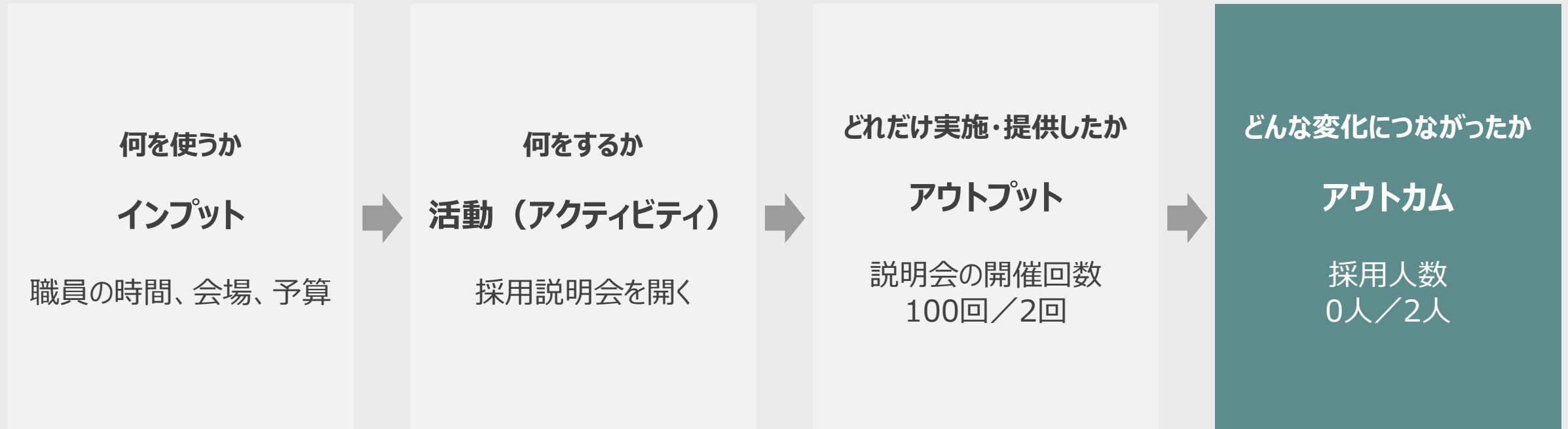
**B**

**説明会 2回  
採用 2人**

数値は二つを比べるための説明用の設定です。

## 1. 実施量と変化

### 回数だけでは、目指した変化が起きたかは分からない



説明会を開くと、なぜ採用につながる？ 途中で何が必要？

# 1. 実施量と変化

## 活動から変化までの道筋を描き、つながり確かめる

道筋の一例



**活動から目指す変化までの道筋を描き、つながり確かめ直す —— ロジックモデル**  
描いた道筋は仮説。実際にその変化が起きているかも確かめる

# 1. 実施量と変化

## 親子交流会で、保護者に起きてほしい変化は？

事業の概要（架空） 手元の前半の用紙と同じ

みどり市では、身近に子育ての悩みを話せる保護者仲間がいない人がいると考えている。そうした保護者に、話せる保護者仲間ができることを目指して、親子交流会を開いている。職員が遊びや少人数で話す時間を用意する。初めての人も参加できる。開催日時は平日午前、申込みが必要。終了後の交流の続き方はまだ分かっていない。

交流会を開く



保護者が参加する



目指す変化  
子育ての悩みを話せる  
保護者仲間ができること

まず、やったこと・実施量・保護者の変化を分けて見る → その後、つながるために何が必要かを考える

四つの文を、活動・実施結果・人の変化に分ける

|        |                                                                                       |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的     | 活動の実施量と、保護者の変化を分けて見る                                                                  |
| 取り組むこと | 四つの文が、活動・直接の実施結果・人の変化のどれを表すか、○を付ける。文だけでは分からないものは「文だけでは判断できない」に○を付け、何が分かれば判断できるか、問いを書く |
| 終わりの目安 | 三つの文を理由とともに分け、判断できない文に問いが一つある                                                         |
| 時間     | 個人で3分                                                                                 |

四つの文（手元の用紙と同じ）

|          |               |                                         |            |
|----------|---------------|-----------------------------------------|------------|
| 1 交流会を開く | 2 参加した保護者が20人 | 3 子育ての悩みを話せる<br>保護者仲間がいると答えた<br>参加者が増えた | 4 つながりが増えた |
|----------|---------------|-----------------------------------------|------------|

考え方の例 —— 誰が行い、誰が変わったかで分ける

| 文                               | 分け方             | 理由                                                    |
|---------------------------------|-----------------|-------------------------------------------------------|
| 1 交流会を開く                        | 活動（アクティビティ）     | 職員が行うこと                                               |
| 2 参加した保護者が20人                   | 直接の実施結果（アウトプット） | 実施した結果の量。参加した人の変化までは分らない                              |
| 3 子育ての悩みを話せる保護者仲間がいると答えた参加者が増えた | 人の変化（アウトカム）     | 参加した保護者に起きた変化                                         |
| 4 つながりが増えた                      | 文だけでは判断できない     | 誰と誰の、どんなつながりか分からない<br>問いの例：「誰の何が変わった？」「誰と誰の、どんなつながり？」 |

20人は分類のための架空の数です。

周りにこの事業を説明するなら、  
参加人数に加えて、  
保護者にどんな変化を起こしたいかも伝えたい

直したい所があれば、今、手元の用紙を直してください

# 知っても、必ず行動するとは限らない

マーケティングで使われる見方の一つ「AIDMA」



例えば、相談することでは

相談先を知る

≠

相談してみたいと思う

≠

実際に相談する

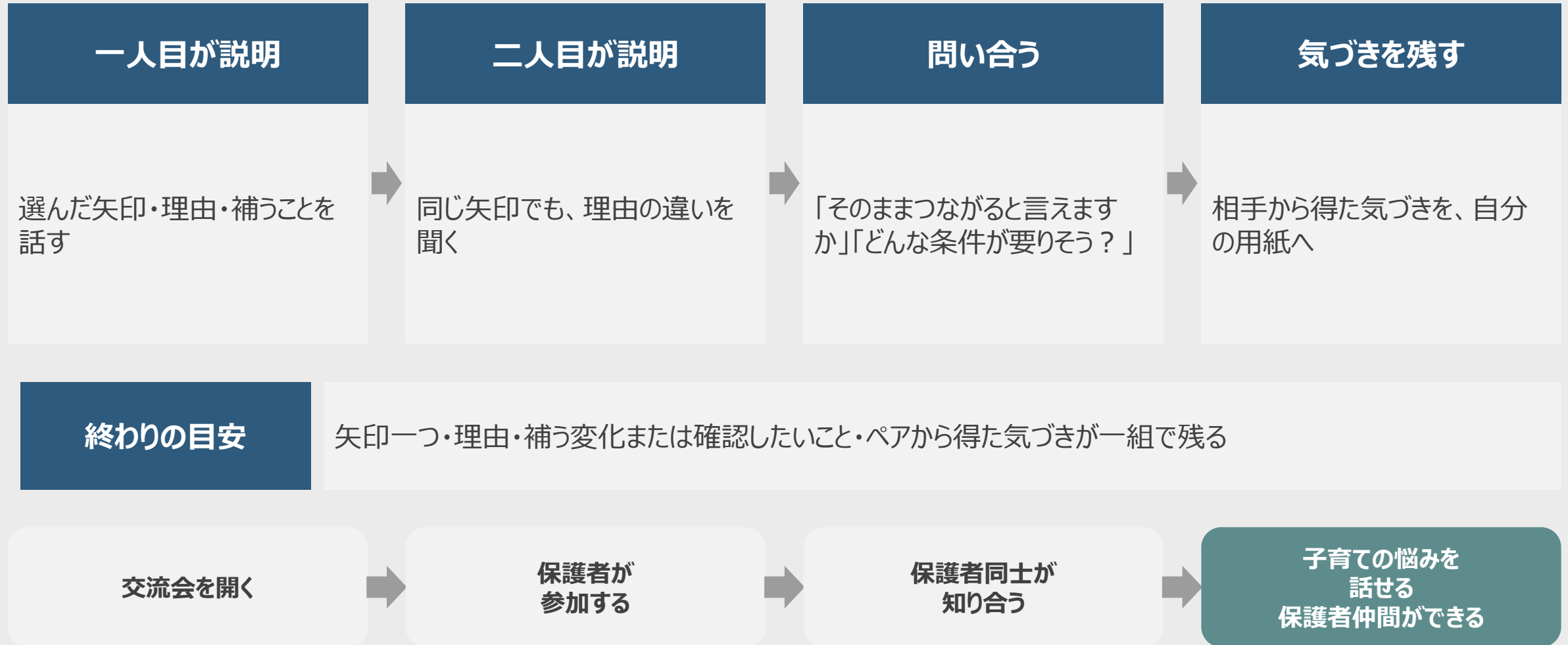
行動には気持ちのほかに、時間や利用条件なども関わります。  
人の行動の変化（行動変容）の道筋や条件を考えるモデルもあります。

## 矢印を一つ選び、つながらない理由と必要なことを書く

|        |                                                                                           |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目的     | 活動が変化につながる条件を言葉にする                                                                        |
| 取り組むこと | 下の道筋から矢印を一つ選んで○で囲む。なぜそのままではつながらないか（理由）と、つながるために必要な変化または確認したいことを書く。事例に書かれていないことは「確認したい」と書く |
| 終わりの目安 | 矢印一つ・理由・補う変化または確認したいことがそろそろ（ペアの気づきは、この後）                                                  |
| 時間     | 個人で4分                                                                                     |



## 隣の人に話し、違う見方を聞く



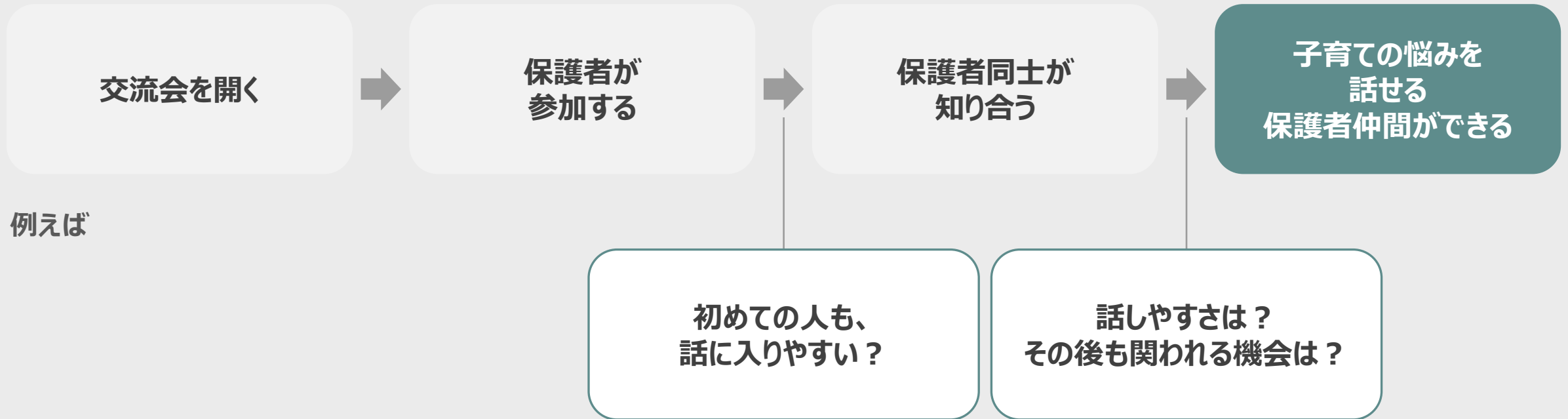
## 2. 説明・相談に補えること

どの矢印に、どんな問いを入れましたか



その理由も教えてください

### つながるために必要なことが見えてくる



どれも、これから確かめたいこと

## 2. 説明・相談に補えること

### 説明が変わると、協力や別案の意見をもらいやすい

#### 最初の説明

「交流会を開催します」



#### 補った説明

「悩みを話せる仲間ができることを目指して、初めての人も話に入りやすい工夫をしたい。その後の関わりも確かめたい」

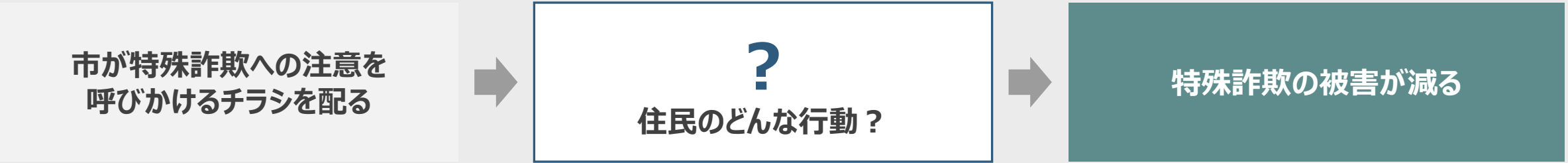
周りの人から

「その工夫なら協力できそう」

「別の方法も考えられそう」

補いたい所があれば、手元の用紙の右下の欄に書き足してください

チラシを配ってから被害が減るまでに、住民のどんな行動が必要？



架空の例です。実在の制度や効果を示すものではありません。

|        |                                                     |
|--------|-----------------------------------------------------|
| 目的     | 分野が変わっても、活動と変化の間を問えるか試す                             |
| 取り組むこと | チラシを配ってから被害が減るまでの間に必要な住民の行動を考える。思いついたら発言する（書かなくてよい） |
| 終わりの目安 | 間に入る住民の行動を一つ挙げられる                                   |
| 時間     | 全体で3分                                               |

## 分野が変わっても、活動の先にある変化を問える

市が特殊詐欺への注意を  
呼びかけるチラシを配る



例えば  
不審な電話が来たとき、  
すぐに送金せず、  
確認・相談する



特殊詐欺の被害が減る

実際にそう行動できるかは、別に確かめる必要がある

## 2. 説明・相談に補えること

### 最初の説明に何を補えそう？ まだ誰に何を確かめたい？

保育士採用でも、親子交流会でも

実施量と目指す変化を分けて見た

活動から変化へつながる理由や条件を考えた

手元の前半の用紙（ワーク2）を  
見返してください  
書き足す必要はありません

#### 後半

1

計画が目指す姿に近づくために、  
保護者にどんな変化が必要かを考える

2

全体像の中で、交流会の位置づけを確かめる

3

各自は一つの変化と取組を考え、  
その変化を見る指標を一つ選ぶ

# 休憩 10分

## 再開 〇〇 : 〇〇

前半の用紙は片付けずに手元に残してください（後半でも使います）

後半の用紙を休憩中に配ります

休憩中の課題はありません